

かつお漁業の先進地視察報告書

1. はじめに

本部のかつお釣漁業は、創業以来93年の歴史を持ち、その盛衰は漁業経営の生活に大きな影響を及ぼしてきた。特にかつお漁業の好況を極めた時代は大正期である。本部町では大正12年に40隻を数えたが、昭和になると不況と不漁で次第に減少した。戦後の一時期再び復活し、かつお漁業で町は賑わったが、その後は次第に衰退し、復帰前の5～7隻から漸減の状況となり大型化した49トン型3隻が残った。平成2年には2隻となり、平成8年になると1隻は海技免許取得者の都合により漁期終了とともに解散するに至り、来る漁期からは1隻体制となる。本部のかつお漁業の経営的危機状況は、かつおシンポジウム等で指摘されながらも改善策が図られず、旧態依然とした経営が続いてきた。この伝統あるかつお漁業を今後も漁業として維持発展させる意があるならば、現状をどう打開するかがこれからの大きな課題だといえる。

2. 目的

本部のかつお漁業の不振の要因は、時代的背景もあるが、主な要因は就業者の減少と高齢化、そして毎年悩みの餌料不足である。この不振の要因を打開するには、小人数で経営可能なかつお漁船の小型化を図り、能率的かつ効率的な改善が必要である。このため新たな活路と展望を切り拓くために、かつお漁業の盛んな高知県に先進地視察を行い経営内容等を重点に見聞してきた。

3. 期 日

平成8年11月26～29日（3泊4日）

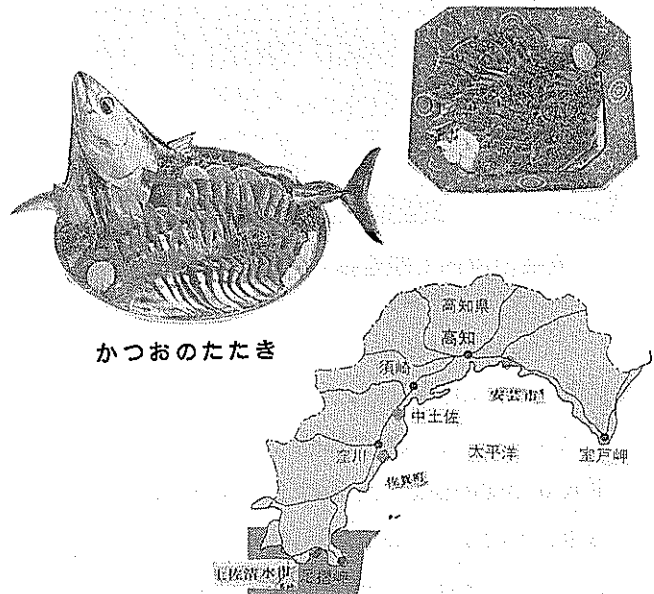
参加者：本部漁協・仲田彦三郎、大城正男、

具志堅和弘、上里淳、具志堅裕、
謝花喜和、天久三男、具志堅勝文、
金城秀則、真栄田正男

本部町役場・當山清浩、玉城昌英
沖縄県水産業改良普及所・金城宏

4. 視察研修地

高知県：安芸漁協、久礼漁協、佐賀町漁協、
清水漁協



5. 安芸漁協の概要

安芸漁協は、高知市の東約40kmに位置し、漁協は5カ所にある。漁業は沿岸漁業が主力で、地先の海底地形は砂地のため底魚釣り等の資源に恵まれないため、しらす（チリメン、ドロクイ）を目的としたパッチ網と曳縄及び砂浜を利用した地曳網が主である。安芸漁協の水揚高は2億9千万円で推移し、漁業者の平均水揚高は300～400万円である。かつお漁船は4隻所属しているが、4隻とも土佐清水に生活の拠点を置き、市場が大きい清水漁協に水揚げしている。4隻の年間水揚高は4～5千万円との事です。



安芸漁協にて



安芸漁協内で組合長から概要を聞く

6. 久礼漁協の概要

中土佐町には、久礼漁協外2漁協がある。町の平成6年度の漁業生産量は5,534トン、その内遠洋、近海かつおが3,095トン(56%)、次に沿岸かつお漁業が1,923トン(35%)で生産量の91%を示し、かつお漁業で生計を立てていることがわかる。久礼は、人口5,800人の小さな街で、久礼漁協の組合員は319名である。平成7年度水揚げは634トン、2億1千3百万円余で、その内かつおは425トン、1億2千百万円と取扱高の57%を示している。特にかつおの水揚げは漁場から帰りに近い市場に3分の2は水揚げされている。かつお漁船所属船は12隻で10~18トン船が8隻、10トン未満船が4隻、漁期は3月中旬から7月中旬の4カ月で、漁場は太平洋側に面し、遠くは100マイル、近くは50~60マイル沖である。かつお一本釣り

の操業及び経営内容等を記述すると、

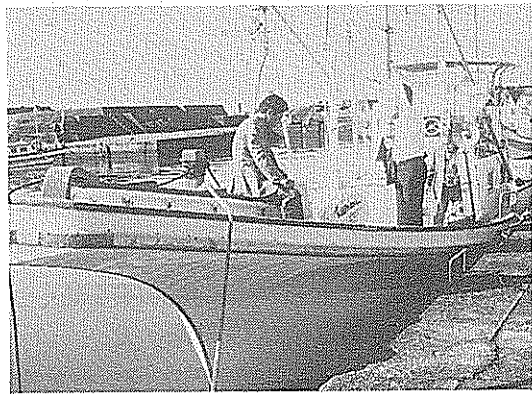
- (1) 夜中に出航し餌場でマイワシの生餌を積み込み出漁する。10トンクラスは2~3日航海である。
- (2) 乗組員は5トンクラスで4~5人、10トンクラスで5~6人、乗組員はかつお漁が始まると自分の船を港に置き、かつお漁業の乗組員となる。漁期が終わると自営の沿岸漁業にもどる。
- (3) 餌料は主にマイワシを使いバケツ1杯で7,000円、正味は10kg程である。10トンクラスでは30杯積み込む(30×7,000)。
- (4) 経費の多くは餌料代が多くかかるので水揚げに対する諸経費はだいたい40%である。
- (5) かつお漁船12隻の内、全量漁協を利用しているのは1隻で外の11隻は漁場に近い徳島県や和歌山県の市場に2分の1か3分の2を水揚げしている。
- (6) 鮮度保持は水氷である。かつおは鮮魚として扱われるので保持には十分留意している。
- (7) 8年度の平均値は400~500円で相場としては良かったが好漁が続くと100円前後になることもある。
- (8) かつお漁業が終わるとフグ延縄漁や小規模なまぐろ延縄漁等に転換する。また、黒潮探検(パヤオ)と明うった観光漁業も営んでいる。



久礼漁協にて、カツオ船主との懇談



久礼漁協の10 tクラスのカツオ漁船



5 tクラスのカツオ船

さて、12隻のかつお漁業の平成7年から8年度の自元漁協への水揚げ状況は表1のとおりである。先に記したとおり、外の市場への水揚げの2分の1か3分の2を加算すると、さらに水揚げは多くなる。唯一自元漁協を利用している中城丸(4.93トン)の8年度の水揚げは26,993千円、諸経費は40%程ということですので、諸経費は10,797千円で差引益は16,196千円となる。乗組員は4人で船主を加えると5人で配当する。4ヵ月操業の1人当たり収入は3,239千円で月平均収入は809千円の計算となる。船長は経営者なので2人分の配当である。

7. 佐賀町漁協の概要

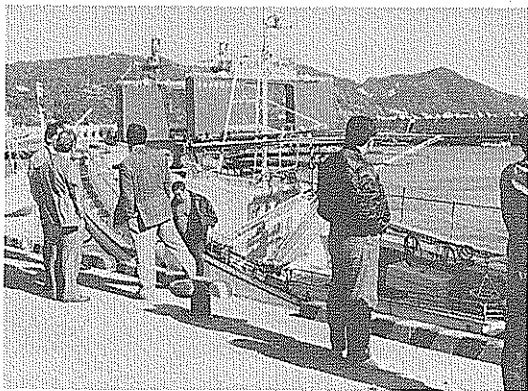
佐賀町は、漁協は一つである。町の平成6年度の生産量は13,692トンで、遠洋、近海かつお漁業は10,865トン(79%)、沿岸かつお漁業は

2,135トン(16%)で生産量の95%はかつおが占めている。自元漁協の水揚げ取扱高は8~9億でその内60%は、かつお、まぐろが占めている。漁船数360隻の内、59トン~160トン型の遠洋、近海かつお漁船が13隻、49トン型が1隻、19トン型の沿岸かつお漁船が12隻後はトローリング船(曳縄)が占めている。19トン型の乗組員は多い方で13人、平均9人の乗組員で構成されている。乗組員は遠洋、近海、沿岸をとわず不足し、特に遠洋は厳しく、不足を補うためにフィリピンからの研修生を受け入れているのが現状である。以下19トン型かつお漁業について記述すると、

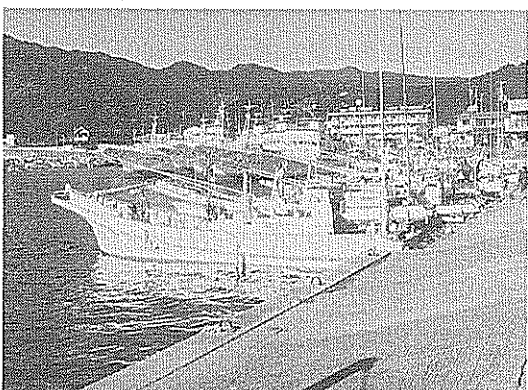
- (1) 佐賀沿岸では餌料となるカタクチイワシの確保は難しいので大分や津久見または鹿児島で買い付けしている。餌料はバケツ1杯で5,600円、1航海に50~60杯積み込む(280~336千円)。
- (2) 操業期間は8~9ヵ月、秋になると黒潮牧場(パヤオ)に脂がのった4~5kgの下りかつおを追って11月まで操業する。その頃の値は1kg当たり1,300円で扱われる。
- (3) 8年度の平均値は近海物で200~350円、沿海物(19トン型)で400~500円と相場は良かった。
- (4) かつおの水揚げの3分の2は漁場に近い外の市場を利用している。
- (5) 水揚げは1億円前後でなければ採算が合わず、8年度の良い方で1億7千万円、悪い方で1億円程の水揚げであった。
- (6) 1億円の水揚げの場合、だいたい4千万円(40%)は諸経費ですので、残り6千万円の収益は経営者と乗組員が半々に配当する。
- (7) かつお漁が終わると船は来期操業への整備に入り乗組員は自船で漁を営む。
- (8) 沖縄近海は好漁場であるが航海日数が1週間かかるため10トン程水揚げすると鮮度面において効率が悪い。



佐賀町漁協で参事から概要を聞く



19 t 型カツオ漁船



近海カツオ漁船と曳縄船

8. 清水漁協の概要

土佐清水に8漁協がある。その内清水漁協の組合員は1,640人(正865人)、漁協運営では高知県一位の漁協である。漁船は5トン未満が多く足摺岬沖を主漁場としてメジカ釣り、サバ

釣りが盛んである。水揚げ高は21億円前後で推移し、多いのはメジカ(6億4千万円)とサバ(3億9千万円)で次にサンゴ及び曳縄釣りである。特にメジカは節として加工し、高知県だけで全国のシェアの90%を占めている。

清水漁協には、かつお漁船はない。清水漁協を基地とした近隣のかつお漁船の水揚げを取り扱っているだけである。



清水漁協にて組合長、参事から概要を聞く



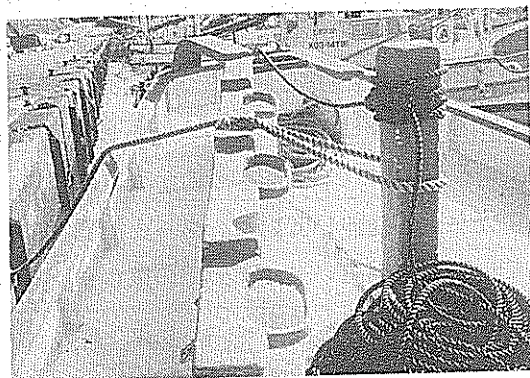
清水漁協市場に水揚げする近隣の5 t 未満のカツオ漁船



清水漁協に水揚げする秋の脂がのった下りカツオ(1,000円/kg)



清水漁協、メジカの水揚げ(メジカ節)



5 t 未満のカツオ船の座台



10 t クラスのカツオ漁船

昨今の輸入水産物の増大で漁価が低迷していることから地方卸売市場としての確立と活性化を期するため、活魚対策推進委員会を中心に、清水サバのブランド化を進めている。円型活魚槽(18トン4槽)に陸上冷海装置を備え、鮮魚の良いサバとして相場の約3倍の成果を収めている。また資源状況の悪化等により漁業も難しい局面に立されていることから船主組合総会決定の資源管理(TAC)に基づき毎週土曜日の市場休業を実施している。

9. 本部のかつお漁業の状況

今期はかつお漁船49トン2隻が稼働し、漁期は4月から10月までで、(1隻は今期で解散し、来期からは1隻が操業)1経営体を見ますと、かつお漁船乗組員は15人、餌取りが15人、計30人の従事者で構成されている。漁場は、パヤオが主で、餌は羽地内海でおもに採捕し、一部は本部地先で取っている。年間水揚げは230トンから267トンで、金額にすると66,312千円から79,628千円で、漁協が300円/kgで買い取っている。販売は、鮮魚部門と加工部門に別れ、鮮魚販売が約45%で残りの55%は加工に回る。

本部のかつお漁船の特徴は、漁船で釣る人と餌を取る人で分業方式となっている。経営は株式(乗組員の一部)で配当方法は漁船及び餌取りも歩合配当(船長、機関長、漁船等は歩合別)され、1人当たりの漁期中の乗組員及び餌料採捕員の平均収入は約100万円程である。

10. 所感

今回は、かつお漁業経営を中心に高知県の4漁協を視察研修してきた。どこの県でも共通することは、若い後継者の減少で漁村は高齢化しているのが話題となった。他の漁業種類と比べれば多人数を必要とするかつお漁船は、乗組員確保は難しい状況にある。その中で土佐の一本釣りで知られる久礼及び佐賀町の漁協では、20トン未満かつお漁船の乗組員は、沿岸漁業に従事している者はかつお時期になると乗組員として乗船する。自営業より収入が多いためである。かつお船によっては1カ月に100万円配当もあるとのこと。久礼漁協の平成8年度のかつおの平均値は500円と前年より高値で扱われたが、7年度は280円台でしたので本部漁協と価格はほぼ同じ額で取り扱われている。しかし漁船の大きさ、乗組員数を本部と比較すると久礼や佐賀町は少人数にかかわらず効率的な漁業経営を行っており、乗組員収入は4倍程度

高いと思われる。

高知県では、どの食べ物店でもかつおのタタキを料理としてメニューにある程で、高知に来たら一度は食したいと思うのである。

一方、佐賀町や中土佐町では漁協や水産団体と共同で「かつお祭り」イベントを大々的に催したり、パンフレットには「鰹の国」へ来てみいや、また、豪快な「土佐の一本釣り」は鰹の国だからできる技……など外の特産品にかならずかつおを結びつけたキャッチフレーズで鰹の町づくりに取り組んでいる。

さて、本部のかつお漁業時期は4月から10月で49トン型かつお船の乗組員は15人、餌料採捕に15人、計30人で構成されている。収益金は船主の分を除いて同じように配当される。約6カ月操業期間の1人当たりの平均収入は100万円程度である。収入が低い主な要因として。

- (1) 漁船の大きさに対し餌料(キビナゴ、タレクチ、アシチン、シーラ、ミジュン)は1日300kgかそれ以下を積み込む、魚倉の大きさに応じて餌料は不足である(佐賀町19トン型は500～600kg)。
- (2) 釣り手の従事者不足と餌料採捕員を比較すると採捕員が多くを占め四そう張網漁法が依然として続いていることから多人数を必要とする。

このことから、いつまでもこの様な状態が続いていたのでは、衰退一方であり本部かつお漁業の灯は消えて寒々とした町になる恐れがあると思う。産業構造は常に変化を続けているので本部のかつお漁業の経営も時代とともに改革に向けなければならない。思い切って10トン未満に切り替える事だと思うのである。そうすると事によって乗

組員は5～6人で可能であり、また、餌料採捕も3～4人で可能な省力化に向けた新しい技術導入を行い、餌料は乗組員が採捕するか、或いは分業採捕体制にするかなどの問題点を克服することによって経費の節減が図られる事になる。また、餌料場は既存の漁場のみに限らず、名護湾なども調査し餌料場の拡大も必要である。さらに餌料の蛸集効果を高めるために水深20～30mに人口藻を付けた浮魚礁を設置し餌料場の拡大を図る。なお鮮度保持に留意し、水揚げされたかつおは漁協が責任をもって販売するという強い体制作りが必要と思う。本部を拠点とした山原の人々のかつおを旬の魚として食べ馴れていると思うので、現に本部のかつおは鮮魚として売り上げは伸びている。もっと消費者に食べていただく面白いアイデアでの魚食普及を促進することだと思います。

さて、活力ある漁村を創り出すためには、本部はかつお漁業を本命に据えて再構築を図って行く必要がある。小型のかつお漁船の導入は当面中古船を考え、自元にあったかつお漁業を確立し将来は新造船へ切り替えて行くことも考慮される。

それから、近代的な漁業経営を目標にして、経営が軌道に乗れば後継者はかならず帰ってくると信ずる。それまでの活力を維持するのは、現役の皆様の方であり、やる気をおこすことです。

最後に、かつお漁も終え次の漁業への準備作業で多忙の久礼漁協の漁業者の皆様そして視察を快く受け入れて戴きました県の土佐清水漁業指導所をはじめ安芸漁協、久礼漁協、佐賀町漁協、清水漁協の組合長、専務ならびに参事には衷心よりお礼を申し上げ視察報告と致します。

久礼漁協かつお一本釣漁業者の水揚状況

(他市場(2/3~1/2)への水揚げは含まれていない)

(単位: kg・円)

表 1

No.	船名	トン数	馬力	平成7年度			平成8年度			備考
				水揚高	金額	単価	水揚高	金額	単価	
1	第8隆幸丸	16.25	140	34,723	10,561,566	304	20,672	10,286,378	498	
2	第8八廣丸	14.07	120	47,870	11,652,446	243	29,080	13,159,813	453	
3	龍盛丸	11.38	140	37,091	9,943,992	268	24,349	10,621,549	436	
4	新生丸	18.87	130	29,946	8,274,389	276	42,013	15,668,739	373	
5	第8努	11.24	120	32,573	9,699,359	298	31,672	15,418,818	487	
6	繁丸	10.88	80	48,134	15,255,145	317	31,654	17,254,160	545	
7	第8盛漁	14.04	120	17,475	3,453,875	198	23,453	10,453,583	446	
8	盛興丸	13.90	110				12,284	4,686,532	382	
9	飛翔丸	9.1	120	60,914	16,944,944	278	32,063	19,928,594	622	
10	中城丸	4.93	90	54,081	17,410,493	322	54,942	26,993,759	491	
11	朝日丸	4.40	90	27,273	9,238,430	339	36,257	16,877,619	465	
12	山下丸	4.89	90	35,726	8,719,884	244	25,213	13,696,181	543	
	計12隻			425,806	121,154,523	285	363,652	175,045,725	481	

過去5年間のカツオ水揚状況

漁船2隻(49t)

(単位: kg・円・%)

年度	生産高	生産金額	平均単価	鮮魚数量	鮮魚販売金額	平均単価	対比	スーパー関係		備考	
4	240,690	68,163,918	283	101,873	47,949,314	470	42.3	6,816	2,106,144	309	6.6
5	236,520	66,816,995	282	86,750	40,645,420	468	36.6	2,190	676,710	309	2.5
6	267,488	79,628,584	298	126,483	56,304,683	445	47.2	19,414	5,852,087	301	15.3
7	229,308	66,312,439	289	116,273	51,219,901	440	50.7	24,152	6,993,030	289	20.7
8	265,446	79,356,100	298	125,338	55,321,709	441	47.2	27,327	8,282,704	303	21.8
平均	247,890	72,055,607	290	111,343	50,288,205	451	44.9	15,979	4,782,135	299	14.3